



はじめての 高島移住 Q&A


いざ移住を決意しても、知らないことや不安なことがたくさんあると思います。高島への移住相談でこれまでに寄せられた質問をもとに、移住に関する疑問にお答えします。

Q 高島市への移住相談はどこにすれば良いの？ 


A 高島市役所2階の市民協働課に定住相談窓口があります。2名のコンシェルジュが移住相談にお応えしています。下記「定住相談窓口」までお気軽にお問合せください。

Q 高島市で空き家を探したいのですが… 


A 高島市空き家紹介システム（空き家バンク）に登録されている物件ならびに市内協力事業者（宅地建物取引業者）の物件をご紹介します。「定住相談窓口」へご相談ください。

Q 地域の方と仲良くやっていけますか？
地域にとけ込むにはどうしたらいいですか？ 

A 自治会活動（集落で行われる草刈り等の作業や、お祭り等の行事）に参加することをお勧めしています。地域の方も、あなたがどんな人なのか、地域になじんでもらえるか、心配されています。一歩引いて聞き役にまわると良いでしょう。

Q 東京や大阪で移住相談できますか？ 

A 年に数回、東京、大阪の移住フェア等に出展して移住相談をお受けしています。お問合せ頂ければ事前にご案内いたします。ホームページや Facebook でも告知しています。

Q 仕事を紹介してくれる所はありますか？ 

A 高島市は厚労省地方自治体無料職業紹介事業の許可をいただいております。ハローワークの求人情報をもとに仕事を紹介することができます。「定住相談窓口」へご相談ください。

— 移住する目的や条件を整理しよう —

① どんな暮らし、生活がしたいか書き出してみよう

例えば… 野菜づくりを楽しみたい、林業に就きたい、自然の中で子育てをしたいなど

② 暮らしの条件をリストアップしてみよう

● 移住の時期は？

半年以内・1年以内・2～3年後・退職後・その他（ ）

● 移住の人数は？

家族と一緒に（大人 人、子ども 人）・単身

● 住むところは？

一軒家・集合住宅 / 賃貸・購入

● どんな環境？

山が近い・びわ湖が近い・農村集落・市街地・駅周辺・別荘地

● 優先順位を番号で記入してみよう

- | | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 自然環境が良い | <input type="checkbox"/> 積雪量が少ない | <input type="checkbox"/> 耕作農地がある |
| <input type="checkbox"/> 交通の便が良い | <input type="checkbox"/> 京阪神に近い | <input type="checkbox"/> 就労の場がある |
| <input type="checkbox"/> 希望の物件がある | <input type="checkbox"/> 子育て環境が整っている | |

● その他の条件

高島市定住相談窓口

〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑 565 番地 高島市役所 2 階北側



☎ 0740-25-8526

✉ takashima_teiju@voice.ocn.ne.jp

相談時間は平日午前9時～午後5時です。土日祝の相談を希望される場合は事前にお問合せください。

高島暮らしへのステップ

高島での暮らしを実現するには、いくつかのステップを踏む必要があります。そのプロセスは人それぞれですが、ここでは基本となるステップをご紹介します。ご自身が今どの位置にいるのかも確認してみましょう。

移住計画 START

高島で暮らすのも良いかも…

Step 1

高島で暮らす目的を持つ



「都会生活に疲れたから、田舎でのんびり暮らしたい」という言葉をよく耳にしますが、それだけでは移住は難しそう。大切なのは、自然豊かな環境で子育てしたい、農家を目指したいなど、目的をはっきりさせること。そうすれば、理想の暮らしに近づけます。

Goal 移住達成!



高島暮らしのはじまりです!

Step 2

パートナーや家族の合意を得よう



パートナーや家族にその気がなければ移住の実現は困難です。最近は積極的な女性も増えていますが、夫が夢中・妻は無関心というケースも。夫のみの単身移住や子どもたちの反対を押し切って移住をする方もいますが、あまりお勧めできません。パートナーや家族とじっくり話し合い、想いを伝え、共有することが大切です。

Step 10 地域へのあいさつ



Step 3

地域との関わり方を考えよう



移住とは、それぞれの地域社会に溶け込むことです。お祭りの手伝いや地域内の清掃といった共同作業に参加することで、地域の一員として認められていきます。仕事や家庭の事情で地域の行事になかなか参加できない方は、その地区の区長さん（自治会長と呼ぶ地域もある）などに事情を説明して相談してみましょう。地域との関わりが比較的少ない別荘地へ移住するという選択もあります。

移住が決まったら、その地区の区長さん（自治会長と呼ぶ地域もある）に挨拶に行きましょう。自分たちがどのような暮らしをするのかを伝えると、地域の方との信頼関係が築きやすいです。引越後には近所の方への挨拶回りをされると良いでしょう。

Step 4

移住先の条件を3つにしぼる



移住の条件は人それぞれ。登山が趣味の方は山の近く、年配の方は総合病院の近くだと良いかもしれません。ただし「雪のない地域で補修不要な古民家を500万円以下」といった無理な希望は移住を遠ざけることになります。譲れない条件を3つくらいに絞ると移住が現実味を帯びてきます。地域の事情を知るためにも定住相談窓口にご相談して条件を整理してみましょう。

Step 9

移住後の仕事は決まっていますか?



移住後に安定した暮らしを続けていくためには仕事が必要です。定住相談窓口では厚生労働省の許可を受け、高島市若者定住職業紹介コーナーを開設しています。お気軽にご相談ください。

Step 5

都会に居ながらも情報を集めよう



高島市の定住相談窓口にお問合せいただくと、移住や高島での暮らしに関する資料をお送りします。また、定住応援サイト「高島で暮らそう」やフェイスブックで様々な情報を発信しています。ぜひチェックしてみてください!

Step 8

住まいを探す空き家の見学



移住後の住まいは、まずは集合住宅か空き家に入る方が大半です。空き家は定住相談窓口と市内の協力事業者（宅地建物取引業者）が連携してご案内しています（高島市空き家紹介システム）。空き家はそれぞれに状態が異なるので水回りを中心に家の状態をしっかりとチェックしましょう。

Step 6

イベントや体験ツアーに参加



「高島に行ったことがない」「移住の決断はつかないけれど、高島のことを知りたい」という人は、高島市内で開催されるイベントや体験ツアーに参加するのがおすすめ。地域の人や移住の先輩と出会い、話を聞いてみましょう。ツアーへの参加をきっかけに移住した人もいます。

Step 7

移住する前に準備したいこと



移住には引越費用や建物の補修費用等が予想以上にかかるケースがあり、いざという時のために貯蓄が必要です。目安としては500万円。また、高島は車社会なので、運転免許がないと不便なことが多いです。可能な限り免許は取っておきましょう。田舎ではネットショッピングの機会が増えるので、パソコンがあると便利です。